

会報



令和 8 (2026) 9.11

NO.152

〒420-0853 静岡市葵区追手町 3 番 11 号 しずおか焼津信用金庫追手町ビル 6 階 TEL : 054-255-4678 FAX : 054-255-4699
URL <https://www.hs-pta-shizuoka.net/> E-mail post@hs-pta-shizuoka.net



会長あいさつ

静岡県公立高等学校 PTA 連合会

会長 杉山 大一

令和八年度会長を務めさせていただきましたことになりました、杉山大一同申します。日頃から本会に対し多大なるご理解とご協力を賜わり心より御礼申し上げます。また、会員の皆さまが、単位 PTA の活動にご尽力されておりますことに敬意を表させていただきます。

さて、現在の公立高等学校を取り巻く環境は、数年前では予想もできない状況になっている事はご承知かと思えます。急激な少子高齢化や人口減少に伴う生徒数の激減、静岡県の主要都市すら、日本国内の市の人口減少のワースト 10 に入り、また、私の所属している東部地区では学年一クラスの学校が多数ある状況です。こうした状況下でこれからの PTA 活動をどのようにしていくべきか、その検討は急務の課題であります。生徒の為に協力、支援することは当たり前で、各学校の伝統や特色をいかに維持し継承していくか最大の課題です。

PTA 役員の任期は限られています。それぞれの年度の役員が、決められた行事を遂行しながらも、長いスパンでの学校の在り方を考え、次の方々と引継ぎをする事が重要です。また、各教育関係機関やその他の行政、地域の各団体とも、お互いの立場で歩み寄り、

出来ること出来ない事を精査し、新たな体制組織を受け入れ、順応する事が最善の策ではないかと思えます。

また、AI の普及によるメリット、デメリットが騒がれております。メリットとしては圧倒的な業務効率化と生産性の向上、精度の高いデータ分析と予測等が挙げられます。こうした特性は、就職氷河期につながるのではという、生徒の不安材料の一つになるはずです。デメリットとしては誤情報の生成、人間の思考力やスキルの低下が挙げられ、コミュニケーション能力の低下も課題になっております。こうしたことを聞くと、私は PTA 活動の理念を思い出します。多様な方々が住む地域社会と関わり、講演会や研修会などを通してコミュニケーション能力を高め、会員一人一人がご家庭に持ち帰り、子どもたちに還元していく。こうした本来の活動が出来れば、デメリットの解決につながるはずです。

今日、インターネットや SNS 等の発信力が高まったこともあり、残念ながら我々 PTA に対するネガティブな意見を目にすることも多くなっています。そのような意見に振り回されず、信念を持ち、実際の生徒や学校現場の状況に寄り添った活動を地道に行

う事が PTA 関係者には大切であり、同時にそうした活動を如何に多くの方々にお伝えするかも大切です。先日開催された、令和八年度県総会での講演会では「子どものコミュニケーション力を育もう」の演題で、天野ひかり先生に講演いただきました。叱る、ほめるのではなく、認める事や自分と異なる価値観や背景を持つ他者の立場に立ち、その人の考えや感情を想像し理解する能力（エンパシー）が重要と聞き、参加者全員が講演の内容に感銘を受け成果ある研修会でした。本年度も例年通りの地区別研修会、東海大会、全国大会で様々な情報が入手でき、常に課題を持つて参加すれば充実した活動になると思います。単位 PTA ではできない事もあります。そんな時の為の PTA 連合会でありたいと思います。会員の皆様のご理解、ご協力の程よろしくお願いいたします。

Contents 目次

静岡県公立高等学校 PTA 連合会 会長あいさつ	1
令和 8 年度 静岡県公立高等学校 PTA 連合会 活動報告	2
静岡県公立高等学校 PTA 連合会 総会・研修会	2
東海地区高等学校 PTA 連合会 総会・愛知大会	4
学校・PTA 紹介	
静岡県立小山高等学校・PTA	5
静岡県立藤枝東高等学校・PTA	5
静岡県立浜松南高等学校・PTA	6
静岡県立浜松視覚特別支援学校・PTA	6
静岡県教育委員会社会教育課	7
静岡県教育委員会健康体育課	7
令和 8 年度 単位 PTA 会長名簿	8
令和 8 年度 静岡県公立高等学校 PTA 連合会 役員名簿	8

令和8年度 静岡県公立高等学校PTA連合会 報告

- 1 静岡県公立高等学校PTA連合会 総会・研修会
期日 6月2日(火) 午後1時30分から 会場 ホテルグランヒルズ静岡
- 2 東海地区高等学校PTA連合会 総会・愛知大会
期日 6月17日(水) 午前11時から総会、午後1時から大会(研究協議・講演会)
会場 刈谷市生涯学習センター・刈谷市民ホール
- 3 第75回全国高等学校PTA連合会大会 2026 大分大会
期日 8月20日(木) 午後：分科会
8月21日(金) 午前：開会式・表彰式・記念講演・閉会式
会場 大分県別府市 別府国際コンベンションセンター ビーコンプラザ他
※大分大会の報告は、次号(153号)に掲載予定です。



静岡県公立高等学校PTA連合会 総会・研修会(講演会)

本年度総会は、六月二日(火)に昨年度より十九名多い三百三十名の皆さまに参加いただき開催しました。挨拶や表彰状の授



受付を担当した運営補助員

与は住吉会長、司会は原拓也副会長、開会挨拶と来賓紹介は杉山大一副会長、閉会挨拶は河田憲一郎副会長が務めました。また、本年度も、午前中から運営補助員として、静岡市葵区・駿河区の公立高等学校の十名の会員の皆様に、配布物準備や会場設営、受付、講演会の後の花束贈呈等、総会・研修会の運営にご協力をいただきました。この場をお借りして、厚くお礼申し上げます。

【総会】

(1) 住吉会長あいさつ

社会の変化に伴い、子どもたちを取り巻く環境は、大きく変化しています。ICTの教育現場への浸透で学びのスタイルが変わり、進路の多様化などに



あいさつする住吉会長

よって保護者の果たす役割も変わりましたが、こうした変化の時代だからこそ、人とのつながりを再認識し、学校・家庭・地域の三者が手を取り合って子どもの成長を支えることが重要だと思っています。PTAは三者の架け橋として大切な役割を担っています。

さて、学校も六月に入り、新入生も学校生活に慣れてきた頃と存じます。同時に、インターハイなど今までの部活動の成果を発揮し、また、三年生は進路決定という重要な時期を迎えています。各学校PTAも総会を経て令和八年度の活動が本格的にスタートしていることと思いますが、私たちPTA連合会は単位PTAの皆さまと情報共有や課題解決で手を携えていきたいと考えております。

私事ですが、私も下の子が県立高校に入学し、再び単位PTAの役員を引き受け、先日総会に出席し、新会長の熱い思いを拝聴しました。皆さまそれぞれが、仕事や家庭で大変お忙しいとは思いますが、子どもたちの成長を見守る貴重な期間です。「できる人が、できる時に、できることを」行い、子どもたちと一緒に楽しみ、成長していきましょう。

(2) 表彰式

総会の前に、単位PTA会長等役員退任者百十二名、校長理事・本部役員退任者七名、合計百十九名の功労者の方々に住吉会長が感謝状と記念品を贈呈しました。被表彰者の皆さまを代表して、全国高P連静岡大会の期間を含む十五年間にわたって本会役員を歴任した関隆之名誉顧問、同じくお子さまが小中学校時代から十五年間PTA活



関氏と三輪氏

動に関わってきた三輪高太郎名誉会長から、表彰のお礼として次の言葉をいただきました。

「高P連役員時代を振り返ると、やはり全国高P連静岡大会の開催が印象に残っている。一方で、会長の時はコロナ禍によりほとんど意図した活動ができなかった。それでもPTAに関わったからこそ、多くの方々と出会い、いろいろな意見を聞き、自分の有意義な財産になった。」

三輪「子どもの小中学校時代から、ずっとPTA活動に関わり続け、自分にとっては子育ての思い出と、今まで経験したPTA活動とは密接にリンクしていて、多くの方々との出会いとともに、大切な良い思い出になっている。」

(3) 祝辞

続いて、ご臨席の来賓を代表して、本年四月に就任した県教育委員会教育長・前澤綾子様から、以下のご祝辞をいただきました。



前澤綾子教育長

「会員の皆様方には、日頃より高等学校、特別支援学校の教育活動に対し、多大なご支援をいただくとともに、家庭教育の充実や青少年の健全育成にもご尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。また、本日は

彰された皆さまにおかれましては、これまでのPTA活動振興へのご尽力に對し深く敬意を表し、心よりお慶び申し上げます。

さて、県では、文部科学省の公立高校改革に関わる大型の補助金六十二億円を獲得できました。そのことに伴う改革先導校として県内四高校が指定されましたが、これらの学校だけにとどまらず今後は公立高校に関わる県の改革実行計画を策定していく予定です。

国が重点化している『実業系教育の充実』、『理数系の人材育成』、『多様なニーズへの対応』は、本県教育の目標にも共通するものです。これからの時代を背負う若者がAIに負けず、たくましく世の中を変えていく人材になってくれるよう、我々も全力を尽くしたいと思っています。

さらにもうひとつ。この場をお借りして強調したいのは、生徒の通学における安全ということです。現在本県では、中学生までは県条例により自転車通学時のヘルメット着用が義務化されていますが、現在これを高校生にまで延長できないか検討しています。昨年度、悲惨な高校生の自転車死亡事故が発生しており、ヘルメットを着用していれば命は守られたかもしれません。多感な思春期の子どもたちは着用を嫌がるかもしれませんが、なによりも大切なものは命ですし、自己責任意識を育てるためにも、是非県下のPTA組織が、家庭や学校で子どもたちに話をしてほしいと思います。

PTAとは、学校と家庭と地域をつなぐ、かけがえのない大切な組織です。子どもたちが地域の宝として社会全体から愛情を受け、健やかに成長できる

よう、今後も皆様とともに取り組んでまいりたいと考えておりますので、引き続きご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。先ほどの表彰式での謝辞の中で、PTAのPは『ぱあ』と、Tは『楽しく』、Aは『明るく』の意味だとお聞きし、実に素晴らしい言葉だなと心から思いました。長く続けていくには大切な考え方です。今後ともよろしくお願いいたします。」

〈出席のご来賓〉

静岡県教育委員会

教育長

前澤 綾子 様

社会教育課長

小竹 啓功 様

高校教育課長

小原 快章 様

特別支援教育課長

山村 仁 様

静岡県PTA連絡協議会

会長

長澤 秀幸 様

(4) 議 事

議長は、慣例により住吉会長が務め、審議の効率化のため、出席者の承認を取って役員改選後も継続して住吉前会長が議長を務めました。総会資料を元に、以下の各議案について事務局や担当役員が説明し、すべて承認をいただきました。

- 第一号議案 令和七年度事業報告
- 第二号議案 令和七年度決算報告
- 監査報告(令和七年度監事築場道弘氏)
- 第三号議案 役員の改選について
- 役員改選説明 (副会長河田憲一郎氏)
- 第四号議案 令和八年度事業計画
- 第五号議案 令和八年度予算

改選が承認された本年度役員については、八ページにお名前を記載しまし

た。なお、総会資料については、県高P連のホームページ「総会・研修会報告」に全文を掲載しておりますのでご覧ください。

静岡県公立高等学校PTA連合会URL
<https://www.hs-pta-shizuoka.net/index.html>

【研修会(講演会)】 演 題

「子どものコミュニケーション力を

育もつ子どもに届く言葉かけ」

講 師 天野 ひかり 氏

(NPO法人親子コミュニケーションラボ代表理事)

静岡県公立高等学校PTA連合会の全県一斉の会員研修の場として、本年度も講師をお招きして講演会を開催しました。本年度講師の天野氏は、一九九五年にフリーアナウンサーとして独立し、二〇〇五年から二〇〇八年までNHK教育テレビ「すくすく子育て」のキャスターを務めました。現在は、フリーアナウンサーとして活躍する一方で、NPO法人親子コミュニケーションラボ代表理事として、親子向けのトークショーやコミュニケーションに関する講演会など多方面で活躍中の方です。



講演する天野氏

講演会では、講師自身の体験や具体的な例を随所に交え、近隣席の参加者同士の話し合いや講師に指名されての意見発表など、様々な方法で会場の参加者を巻き込みながら進行していきます。講師が教えてくれた子どもに届く言葉かけのコツとは、次のような内容でした。



会場の様子

合い、どんな子どもに育てていきたいのか再確認して、子どもに身につけさせたい力を見つけることが出発点である。

(二) 講師が考える子どもに身につけさせたい力は、「自己肯定感」「自分で考えられる自律の力」である。保護者が自分で考えた身につけさせたい力を確認したら、子どもに毎日言葉かけをしていきたい。しかし、ここで注意したいのは、「OKことば」(子どもの視点で話す言葉)を使うようにし、「NGことば」(保護者の視点で話す言葉)を使うのは避けた。

(三) 子どもの自己肯定感を高めるためには、保護者が子どもを認めつつ、自ら手本を見せ、社会のルールを説明していくというステップを踏んでいくのが良い。

(四) 子どもが自ら考える力を育むために



会場の様子



講師に花束贈呈

は、叱ったり、ほめたりするより、認める言葉を放つのが何よりも効果的である。子どもを受け入れ、失敗してもチャレンジしたことを評価し、できたことを言語化し、人間としての成長を称え、感情を認めるなど、相手の立場に立って相手を理解する能力（エンパシー）を保護者は身につけていきたい。言葉のプロであるアナウンサーとして長年活躍してきた天野氏らしく、言葉によるコミュニケーションを大切にしながら、子どもと良好な関係を築いていくコツを教えてもらいました。講演の中で講師が強調した「エンパシー」とは、夫婦・同僚・友人など、どのような相手とのコミュニケーションにも共通します。「自分の子どもとのコミュニケーションはすべての基礎である」という講演の締めくくりはとても印象的で、難しい思春期の子育てに悩んでいる会員にとって背中を押してくれるような内容でした。

なお、この講演会の運営から令和八年度の本部役員が中心となり、司会、講師紹介、開会・閉会の言葉などを分担して担当しました。最後に、感謝の気持ちを込めて杉山新会長が謝辞を述べ、静岡城北高等学校の吉岡様が講師に花束を贈呈し、本年度の講演を締めくくりました。

東海地区高等学校PTA連合会 令和八年度総会・愛知大会 報告

六月十七日（水）、愛知県刈谷市において、令和八年度東海地区高等学校PTA連合会の総会（於生涯学習センター）及び愛



あいさつする県代議員(磐田北高)

知大会（於刈谷市民ホール）が、開催されました。午前中の総会では、東海地区四県の会長、副会長、

理事、監事、代議員などが一堂に会し、令和七年度の事業報告と決算、令和八年度の役員案と事業計画と予算を審議し、すべての議案が承認され、正式に令和八年度の体制がスタートすることとなりました。

午後のお会には、東海四県から計八百七十七名の参加がありました（本県からは百九十六名が参加）。冒頭の開



あいさつする大山代議員(浜松北高)

会式は、東海地区高P連杉山大一副会長（本県高P連会長）の開会の言葉から始まり、続いて主催者を代表して同伊豫田英貴会長（愛知県高P連会長）、田名部智之全国高P連会長が挨拶しました。

【研究協議】

開会式に続く研究協議では、愛知県立千種高等学校PTAが『人が自然と集まるPTAとは』千種高校が大切に



主催者として壇上に並び本県杉山大一会長(左端)

してきたことと、三重県立伊賀白鳳高等学校PTAが『PTA活動を通して生徒との交流』と題打って日ごろの活動を発表してくれました。千種高校は、口コミ等で活動の楽しさを伝えることで全校であわせて百八十名の役員が立候補により活動していると紹介し、会場を驚かせました。また、伊賀白鳳高校は、三人の子どもが学校にお世話になったと前会長が学校愛を込めて紹介し、文化祭の交流会で子どもたちと一緒に楽しく活動している様子を報告してくれました。発表後の質問も数多く飛び交い、会場の参加者の意識の高さを感じさせられました。

【講演会】

本年度の講演会では、大阪市立大空小学校の初代校長として九年前にわたり「すべての子どもの学習権を保障する」教育を実践してきた木村泰子氏が『みんなの学校が教えてくれたこと』という演題で講演をしてくれました。同小学校は、障害の有無にかかわらず全ての子どもたちが共に学ぶ場をつくり、二〇一五年には学校の一年間を追った映画『みんなの学校』が公開され、大きな反響を呼んだ学校です。開校当初は、同校ではPTA希望者がいなかったことから、「S（子どものサポーター）E（子どもの可能性を引き出す）A（主体性・当事者性）」という新組

織を立ち上げ、代表を「キャプテン」と呼ぶことで、新組織の参加者に主体的な関わりをお願いしたとのこと。木村氏は、学校にとっては教職員とは一定期間が過ぎると通り過ぎていってしまう「風」のようなもので、学校を支える「土」とは地元であって、地域や保護者こそが長い期間学校を形作っていく原動力であると力説しました。

大空小学校の教育目標は、「人を大切にする力」「自分の考えを持つ力」「自分を表現する力」「チャレンジする力」の四つで、これらは保護者の自主的な活動を通して育まれていったそうです。講師は、これからの社会では、「自律する力」、すなわち「自ら考え、判断し、決定し、行動する力」が求められていると私たちに訴えました。現在私たちがの周囲を見回してみると、残念ながら格差や排除の論理などによって、他者と壁をつくりがちな状況に陥っている面があります。であるからこそ、大空小学校の「誰も排除しない教育」という理想や考え方は、参加者に強く語りかけるものがありました。

講演会終了後は閉会式を行い、東海地区高P連山田健太郎副会長（岐阜県高P連会長）が、閉会の言葉を述べ、令和九年度は六月十八日（金）に、岐阜市の長良川国際会議場で大会を開催すると報告し、愛知大会は無事終了しました。



会場の様子

静岡県立小山高等学校

学校紹介

静岡県立小山高等学校は、昭和六十一年に創立し、現在は全日制・定時制の二課程に加え、静岡県立御殿場特別支援学校小山分校を併設している学校です。生徒は校訓「自尊」のもと、学習、部活動、学校行事に積極的に取り組んでいます。



進路指導では、大学進学をはじめ、特に看護・医療系や保育系への進学に向けた分野別指導を行い、多くの成果を上げています。部活動では、ダンス部や総合文化部写真班が全国大会に出場し、他の多くの部活動も県大会へ進出しています。また、「一部活一活動」を掲げ、各部活動が地域貢献活動にも積極的に取り組んでいます。

静岡県立御殿場特別支援学校とは、日頃から昼食交流会や学校行事を合同で実施するなど、継続的な交流を行っています。



本校では、「いかなる時代にもたくましく生き抜ける人間の育成」を教育目標に掲げ、校内はもとより地域社会にも貢献できる生徒の育成に、日々努めています。

校長 櫻井 教文

PTA紹介

本校のPTA活動は本部役員八名、各部ごと支部長と副支部長一名ずつ、二つの専門委員会（広報・生活委員会）で活動しています。



主な活動内容は、広報委員会では広報誌「飛峰」を年二回発行し、PTA役員紹介や学校行事での生徒たちの様子を載せています。また、生活委員会は文化祭での駐車場の運営、生徒通学時交通安全街頭指導での登校指導・声掛け運動をして生徒たちの安心と安全を守る活動を行っています。

本部役員は総会やPTA研修会に参加し、他校とのPTA活動の情報交換や教職員の方々の情報交換を行っています。



学校・保護者・地域をつなぎ一つの輪を作り、生徒たちがより良い学校生活を送れるよう、今後も一人一人ができることをし、協力して、生徒を支えていけるPTA活動を目指していきたいと思っています。

PTA会長 芹澤 知代

静岡県立藤枝東高等学校

学校紹介

本校は令和六年度に創立一〇〇周年を迎え、志太榛原地区の拠点として教育活動を行っています。学校規模は全日制各学年七クラス、定時制一クラスですが、定時制は令和八年度末に閉課程となります。本校のスクール・ミッションは、「探究する力を育む教育実践を通して、新たな価値を創出し、未来社会を切り拓いていくグローバルリーダーを育成」することです。



三年間で生徒が身に付ける力をスクール・ポリシーに定め、生徒は授業を中心としたあらゆる学習の機会を通して、確かな知識の習得と様々な課題を解決する判断力・思考力を身に付けていきます。学校行事や部活動など、多くの経験を生かして、社会貢献の意識を持つリーダーとなっていくことを確信しています。

百年前の開校時に初代校長がサッカーを校技と定めたことから、体育の授業でも部活動でもサッカーに親しむ生徒が多いのが特徴です。



校訓「至誠一貫」のもと、生徒は他者を思いやり、誠実な態度で毎日の生活を送っています。

校長 森谷 幹子

PTA紹介

本校のPTA活動は、六名の本部役員と地区長・副地区長会及び四つの委員会（総務・健全育成・進路対策・防災対策）で構成され、各委員会が様々な行事を企画運営することで生徒や学校の取り組みを支えています。



総務委員会では志太榛原地区の指導者研修会への出席、健全育成委員会では登校時の街頭指導やマラソン大会の監察、進路対策委員会は予備校講師をお招きしての進路講演会の企画運営、防災対策委員会は各地区防災訓練の視察と報告など、各委員会が活発に活動を行い、学校との結びつきや会員同士の結びつきを強めています。

本校のPTA活動は理解ある保護者のお陰で、加入率も一〇〇%を保っており、また総会の出席者も平日の午後にもかかわらず四百五十人を数え、全体の五十三%の出席率を得ることができました。これも創立百年を超える伝統と理解ある地域に支えられた校風のなせる業であると感じております。これからも更なる発展のために活動を活発化させる仕掛けを考えていきます。



PTA会長 大橋 洋介

静岡県立浜松南高等学校

学校紹介

本校は、昭和三十八年、普通科五クラス、商業科四クラスの普通併設校として産声を上げました。その後改編もあり、普通科七クラス、理数科一クラスの進学を中心とした高校として今に至り、地域に人材を輩出し続けています。

命令形ではなく、

呼びかける形の校訓「最善を尽くそう」のもと、学習・部活動・学校行事のすべてに渡って「自ら学びに向かう主体性を持った生徒の育成」を掲げ、日々教育活動に邁進しています。創立六十年を超えた現在、生徒が自学できる空間をテーマに設計された新校舎が建設中です。令和九年度からの新校舎での生活に合わせ、七時間目の削減や補習の精選による生徒が自ら活用する時間の創造、活用のための研究・実践を生徒・教職員一丸となつて行っているところです。



来年度以降、旧校舎が解体されることで環境は変わりますが、先輩方の伝統を引き継ぎ、これまでどおり、校訓を体現した生徒の育成を目指して支援に努めていきます。

校長 鈴木 学

PTA紹介

浜松南高校のPTAは、生徒の充実した高校生活を支援するため、役員が中心となつて活動を進めております。具体的には、平日及び土曜日の補習授業や模擬試験、図書室の運営に対する支援、進路だよりの発行や卒業生による進



路講話の開催など、学びの場と選択の機会を広げる活動や、生徒の挑戦を後押しする環境づくりに取り組んでおります。また、秋にはPTA交通街頭指導を実施し、自転車の交通安全を指導する活動も行っております。

PTA活動は、生徒たちの一步一步の歩みに寄り添い、見えないところで支える大切な役割を担っております。活動の根底にあるのは「子どもたちにとって最良の学びの場を共につくりたい」という思いです。そして、その思いは、保護者の理解と協力に支えられています。これからも、浜松南高校の教育活動が実り多きものとなるよう、保護者も生徒や学校とともに、進んでまいります。



PTA会長 石津 正貴

静岡県立浜松視覚特別支援学校

学校紹介

本校は、大正十年に私立浜松盲学校として開校した、見えない人や見えにくい人が学ぶ学校です。本年度で百五年目を迎えました。幼小学部、中学部、高等部普通科、そして、あんま・マツサージ・指圧師、はり師、きゆう師を養成する高等部専攻科があり、幅広い年齢の人が学んでいます。



幼児児童生徒数は多いとは言えないかもしれませんが、いつも明るく楽しい声や活気ある声が響き、教職員も幼児児童生徒もお互いを大切にし合う優しい学校です。

本校の教育目標は、「未来に向かって、よりよく生きる」です。本校で学ぶ一人一人が、「未来（将来）」を考えつつ、そこにつながる「今」を大切に生活してほしいという願いを込めています。教職員も同じ気持ちで、共に学び続ける姿勢を大切に、学校全体のウェルビーイングの実現を目指します。

歴史は長くても、本校の教育活動がまだまだ知られていないと感じる機会が多くあります。学校の魅力発信に努めていますので、ぜひインスタグラムやホームページを御覧いただきたいと思っています。



学校Instagram

校長 上村 英昭

PTA紹介

本校PTAは小規模ながらも会員全員が協力し、活動を精選して運営しています。中でも施設見学は、子どもたちの将来を考える重要活動として毎年実施しています。令和七年度は、卒業生三名が正社員として勤務する西山病院と、



視覚障害者支援を行うNPO法人ウイズ半田を訪問しました。現場での説明や、生き生きと働く卒業生の姿を見学し、子どもたちの卒業後の未来を具体的にイメージする貴重な機会となりました。

また、遠方から通う家庭が多いことを考慮し、参観日には保護者が気軽に情報交換できる場を設けています。昨年度は「防災」をテーマに、炊き出し等の体験を交えながら各家庭の防災対策について有意義な意見交換を行いました。

小規模ゆえに活動は限られますが、今後も保護者と学校が手を取り合い、地域の御協力をいただきながら、子どもたちの学校生活と豊かな未来を支えていきたいと考えています。



PTA会長 和田 清美

「地域ぐるみで取り組む教育の推進」 静岡県教育委員会 社会教育課

県教育委員会社会教育課では、学校・家庭・地域等の連携による「地域ぐるみで取り組む教育」を推進しています。

【学校・家庭・地域の連携に向けて】

PTAの活動を経験した多くの方々から、「地域学校協働活動推進員」や「家庭教育支援員」として、学校・家庭・地域をつなぎ、地域の教育活動の中心となり、未来を担うこどもの成長を支援する人材として活躍しています。子育ての経験や得意分野のスキルを生かし、地域で行われる様々な活動に参加していただける方を募集しています。

○地域学校協働活動

PTA、地域の高齢者、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体でこどもたちの学びや成長を支えるために、「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」を目指して、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的な推進に取り組んでいます。授業や部活動、キャリア教育等の地域による支援やこどもたちの地域行事への参画などを促進しています。地域で育ったこどもが、地域のこどもを育てる人材となる「教育の循環」が生まれています。

○家庭教育の支援

すべての保護者が安心して家庭教育を行えるよう、身近な地域で家庭教育を支援する「家庭教育支援員」や「家庭教育支援チーム」により、学校及び地域と連携した支援活動を推進しています。

静岡県家庭教育実態調査では、こどものスマホやネットの利用に関して不

安を感じている保護者が多いことがわかりました。安全なネットの利用方法や、ネット使用時のルール作りの大切さを伝える「スマホルールアドバイザー」の養成を行っており、令和七年度は二万人以上に啓発活動を行いました。

【青少年の健全育成】

青少年の体験活動の推進、不登校やひきこもりなどの困難を有することも、若者の支援、「青少年声掛け運動」の実施など、保護者や地域団体等と協力し、青少年の健全育成に取り組んでいます。

○「静岡県こども・若者支援機関マップ（アイ）マップ」

「アイ」マップは、「合同相談会」ニートやひきこもり、不登校、発達障害などで悩んでいるこども・若者やその家族の支援に関わっている静岡県内の支援団体・相談機関を紹介する「静岡県こども・若者支援機関マップ（アイ）マップ」を作成しています。県内教育機関をはじめ、医療機関などへの配布や、ホームページへ電子版を掲載するなど、広く活用いただけるよう取り組んでいます。

また、「i（アイ）マップ」に掲載されている支援団体と個別に相談ができる「合同相談会」を、開催市と連携して実施しています。令和八年度は、七月十八日の静岡市を皮切りに、沼津市・富士市・伊豆の国市・浜松市・島田市で開催します。



i (アイ) マップ



合同相談会

※県社会教育課ホームページから

資料等がダウンロードできます。

静岡県 社会教育

検索

「高校生のヘルメット着用に向けた取組」 静岡県教育委員会 健康体育課

道路交通法の改正により、令和五年四月から自転車用ヘルメットの着用が「努力義務」となっており、三年が経過しましたが、警察庁が全国で実施した令和七年のヘルメット着用率の調査では、静岡県が九・九%と大変低い結果となっています。その中でも、本県の高校生は約四人中三人が通学時に自転車を利用してありますが、県教育委員会の調査では高校生のヘルメット着用率が八・五%と県全体の着用率を下回る結果となりました。県内で発生した自転車事故の約三割が高校生によるものであり、加えて、高校生の自転車通学時における死亡事故が三年連続で発生しています。自転車による交通事故の致命傷は頭部の損傷が約六割を占めていると言われており、万が一巻き込まれた場合の被害軽減の対策として、ヘルメットの着用は極めて有効です。

県教育委員会では、高校生の自転車通学時におけるヘルメット着用促進を図るため、令和八年度入学者の自転車通学の許可条件に「自転車乗車用ヘルメットの所持」を位置付けるよう、各学校に通知しました。「所持ではなく、着用でなければ効果が無いのではないか」という意見はありましたが、令和八年五月に実施した着用率調査では、一年生の着用率が三十七%と、一定の効果が見られました。一方で、沼津市、富士市、富士宮市には他に先駆けてヘルメットの着用を通学許可条件として



ついています。

こうした背景を踏まえ、県では、現条例において定めている「幼児及び自転車通学時の小中学生を対象としているヘルメット着用義務を、通学時の高校生まで拡大する」ための改正案を九月県議会に提案できるよう、パブリックコメント等の手続きを進めており、す（七月末現在）。

昨年、県立学校の交通安全担当者を対象に「高校生のヘルメット着用率を向上させるために有効な方策は」と聞いたところ、「条例による着用の義務化」が最も多い回答でした。そのことから、今回の改正の動きは、学校現場において前向きに捉えられていることが伺えます。もちろん、条例を改正したとしても、実際にヘルメットを着用するのは高校生自身です。学校が着用を指導できるのは、登校時、下校時の限られた時間です。ヘルメット着用義務化により、新たにヘルメットを購入する家庭も多いかと思われます。この機会に、家庭内でヘルメット着用の必要性について繰り返し話し合い、命を守るための習慣として着用を促すなど、継続的な働きかけをお願いします。

いる学校があり、そうした学校の着用率は高いものの、前年から変化が見られない学校もあるなど、学校間の差が大きいことが課題とな

令和8年度 単位PTA 会長名簿 (敬称略)

No.	学校名	氏名	No.	学校名	氏名	No.	学校名	氏名	No.	学校名	氏名
1	下田・南伊豆分校	鈴木 里美	31	吉原工業	原 佐藤 寛之	61	焼津中央	近藤 聖広	95	浜松西	柴山 和俊
2	下田・南伊豆分校	谷津 麻衣子	32	吉原工業	増田 光昭	62	焼津水産	平石 康久	96	浜松南	石津 正貴
3	松崎	山本 貴一	33	富士	渡邊 定賢	63	藤枝東	大橋 洋介	97	浜松湖東	鈴木 通恭
4	稲取	金田 かなみ	34	富士	木村 悦子	64	藤枝西北	佐野 武志	98	浜松湖南	松浦 洋一郎
5	伊豆伊東	前田 光利	35	富士宮東	芹澤 千夏	65	藤枝西北	川村 彩乃	99	浜松江之島	戸塚 由季子
6	熱海	坂本 光徳	36	富士宮東	田邊 道紀	66	藤枝特別支援	平井 佳世	100	浜松東	山本 早織
7	伊豆総合	岩田 康孝	37	富士市立	深澤 信隆	67	焼津分校	新保 惣一郎	101	浜松大平台	八木 裕美子
8	伊豆総合・土肥分校	山本 清夏	38	富士特別支援	齋藤 崇	68	清流館	桜井 真規	102	浜松工業	井口 志津
9	伊豆中央	加藤 大志	39	富士宮分校	西川 亜希子	69	島田工業	高木 洋子	103	浜松城北	波多 信広
10	田方農業	谷口 義法	40	富士宮分校	小宮 広美	70	島田工業	牧野 雄介	104	浜松商業	守屋 貴広
11	三島南	石田 卓宏	41	富士東分校	山本 奈保子	71	ふじのくに国際	澤入 健吾	105	浜松市立	荒川 裕介
12	三島北	道川内 亮	42	富士宮北	清 貴光	72	川根	中川 守	106	浜松市立	宮近 邦人
13	三島長陵	千野 直美	43	富士宮西	谷口 由美子	73	川根	新 利昭	107	浜松市立	天野 佳令
14	三島長陵	高田 実里	44	富士宮西	名取 翔子	74	相原	市川 貴千	108	浜松市立	中川 雄介
15	東部特別支援	飯島 杏美	45	清水水	鳥居塚 安伸	75	吉田特別支援	山下 慎太郎	109	浜松市立	大山 美幸
16	伊豆高原分校	大川 美紀	46	清水水	本山 友美	76	掛川特別支援	松井 響子	110	新居	山桐 久次
17	伊豆の国特別支援	川島 庸	47	清水南	小池 宏	77	掛川東	(本部役員代表)	111	湖西	居近藤 真也
18	伊豆下田分校	鈴木 茂孝	48	清水桜が丘	伊藤 高義	78	掛川西	岩倉 浩仁	112	浜松視覚特別支援	長濱 昌子
19	伊豆松崎分校	鈴木 文枝	49	清水桜が丘	望月 栄里	79	掛川工業	長濱 浩作	113	浜松聴覚特別支援	岡田 清美
20	御殿場	夕田 優美	50	清水桜が丘	青木 清之	80	小笠原	岡田 淳	114	西部特別支援	村松 紗央里
21	御殿場	森 園枝	51	科学技術	渡辺 佑美	81	小笠原	齋能 由行	115	浜松特別支援	松本 浩一
22	小笠原	山本 寛隆	52	科学技術	田垣 教子	82	横須賀	山口 浩司	116	浜松特別支援	渥美 祥子
23	裾野	山本 寛隆	53	静岡	岡田 都彦	83	掛川特別支援	丸田 幸典	117	浜松特別支援	長坂 洋一
24	沼津東	木村 昌宏	54	静岡	山本 忍	84	遠江総合	伊藤 志保	118	浜松特別支援	宮本 かな子
25	沼津西	坪井 千晴	55	静岡	岩崎 章生	85	袋井	矢野 恵佳			
26	沼津城北	杉山 寛隆	56	静岡	青嶋 大輔	86	袋井商業	荒井 伸明			
27	沼津工業	増島 和美	57	静岡	浦田 康裕	87	磐田	井松 正典			
28	沼津	山崎 幸人	58	静岡	鈴木 圭介	88	磐田	山本 初月			
29	沼津商業	前田 朱奈帆	59	静岡	鈴木 慎太郎	89	磐田	大竹 伸明			
30	市立沼津	齋藤 明広	60	静岡	見原 宗吾	90	磐田	山崎 貴美			
	沼津視覚特別支援	小林 真寿美		静岡	永井 美香子	91	磐田	小谷 尚文			
	沼津聴覚特別支援	大関 郁子		静岡	藤井 大学	92	天竜	鈴木 隆裕			
	御殿場特別支援	伊藤 偉厚		静岡	田中 佑輝枝	93	袋井特別支援	松山 由里香			
	沼津特別支援	伊藤 達也		静岡	河原崎 佳奈絵	94	袋井特別支援	渡辺 真弓			
	沼津特別支援	草谷 修一		静岡	西村 達也		磐田見付分校	木元 貴美			
	伊豆田方分校	三宅 英二		静岡	杉山 玲子		天竜特別支援	安藤 智子			
	愛鷹分校	山田 亜希子		静岡	関根 美香		浜松北	鶴見 英人			
				静岡	望月 栄裕		焼津	和田 和彦			



令和8年度 静岡県公立高等学校PTA連合会 役員名簿 (敬称略)

No.	役職	地区世話人校理事 研修会担当校理事	氏名	学校名	推薦地区 推薦者
1	会長		杉山 大一	三島山	
2	副会長		小澤 敏昭	三島山	
3	副会長		辻 克浩	沼津工業	理事長会
4	副会長		原田 雅樹	静岡	
5	副会長		鈴木 将孝	浜松北	
6	副会長		織田 敦	静岡	
7	校理	長事	小林 浩明	沼津東	県高校長協会
8	校理	長事	山崎 文則	沼津東	
9	校理	長事	飯田 寛志	浜松北	
10	校理	長事	鈴木 伸彦	事務局長	理事長会
11	校理	長事	金田 かなみ	稲取	賀茂
12	校理	長事	福井 清夏	三島山	
13	校理	長事	道川内 亮	三島北	三島・田方
14	校理	長事	谷口 義法	田方農業	
15	校理	長事	木村 昌宏	沼津東	沼津・駿東
16	校理	長事	坪井 千晴	沼津西	
17	校理	長事	谷口 由美子	富士宮西	富士・富士宮
18	校理	長事	渡邊 定賢	富士宮	
19	校理	長事	望月 栄里	清水桜が丘	清水
20	校理	長事	見原 宗吾	駿河総合	静岡
21	校理	長事	鈴木 圭介	静岡農業	
22	校理	長事	佐野 武志	藤枝西	志太・榛原
23	校理	長事	平石 康久	焼津水産	
24	校理	長事	川村 彩乃	藤枝北	
25	校理	長事	長濱 裕作	掛川西	掛川
26	校理	長事	堤 哲八	磐田北	磐田
27	校理	長事	山本 初月	袋井商業	
28	校理	長事	八木 裕美子	浜松大平台	浜松南部
29	校理	長事	鶴見 英人	浜松北	浜松北部
30	校理	長事	大田 美幸	浜松湖北	
31	校理	長事	伊藤 志保	掛川特支	特別支援P連
32	校理	長事	芹澤 知代	沼津・駿東	
33	校理	長事	渡辺 佑美	科学技術	静岡
34	校理	長事	近藤 真也	新居	浜松南部

No.	役職	氏名	学校名(所属)	推薦者
1	名誉会長	住吉 明	静岡農業	
2	名誉顧問	豊岡 武士	三島山	
3	顧問	河田 憲一郎	沼津工業	理事長会
4	顧問	山本 泰三	清水桜が丘	
5	顧問	原 拓也	浜松北	

高P連事務局

No.	役職	氏名	学校名(所属)	推薦者
1	局長	鈴木 伸彦	沼津工業	漆畑 礼美
2	次長	赤石 達彦	沼津工業	沼野 尊子

編集後記

FIFAワールドカップ決勝トーナメント1回戦で、ブラジルに惜敗した直後にこの原稿を書いています。サッカー王国を相手に見事に先制し、その後もしぶとく守り、あと一步まで追いつめた好ゲームに感動しました。ところで、今年は丙午(ひのえうま)ですが、総務省統計局の発表したデータによると、今年4月1日時点の「こどもの数」(15歳未満人口)は1,329万人で、かつての迷信はさておき子どもの数の減少は45年間続いているとのこと。しかし、子どもの数は減っていても、いろいろなスポーツで、昭和時代よりも世界を舞台に大活躍する若い選手が増えているとは思いませんか。各校のPTAも、少子化等により加入者は減少傾向にありますが、活動の質や満足度は数だけに左右されるものではないと思いました。(事務局長)